

を
育
て

石水博物館の茶道具



川
喜
田

た
名
品

2018年

10月13日(土)ー12月23日(日)

休館日:月曜日 開館:午前10時~午後5時(入館午後4時30分まで)

観覧料:一般800(600)円、大高生500(400)円、中学生以下無料*()内は20名以上の団体料金

主催:公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

特別協力:公益財団法人石水博物館

半
泥
子



 香雪美術館
KOSETSU MUSEUM OF ART

尾形乾山
染付阿蘭陀写草花文角向付
江戸時代



重要美術品 伝紀貫之 高野切 平安時代

伊勢・川喜田家に 代々、受け継がれた 茶の湯

梅園会(講演会と茶会)

「伊勢商人川喜田家～半泥子を育んだ文化と教養～」
講師：龍泉寺由佳氏

(公益財団法人石水博物館 主任学芸員)

開催日：2018年10月14日(日)

講演：午後1時/茶会：午後3時から

定員：50名(応募多数の場合は抽選)

参加費：3,000円 ※本展覧会の入場料を含みます。

締切：9月14日(金)必着

[参加申込方法]往復はがきに住所・氏名(返信用にも)、電話番号を明記のうえ、下記宛先までお送りください。はがき1枚につき1名のみ申込みできます。申込み受付後、参加費事前入金のご案内を書面にて連絡いたします。

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1
香雪美術館「梅園会」係

ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日(ただし11/24は除く)

午後2時から学芸員によるギャラリートークを行います。

※ギャラリートークの聴講は無料ですが、別途展覧会の鑑賞券が必要です。

石水博物館(三重県津市垂水)

半泥子が、昭和5年(1930)に地域の文化振興と社会福祉活動の場として設立した、祖父の号を冠した文化財団を母体に、昭和50年(1975)に開館。地元根ざした博物館として親しまれています。



表面：轆轤をひく半泥子 昭和15年(1940)、木綿問屋川喜田家の暖簾
江戸-明治時代、井戸茶碗 銘「紅葉山」朝鮮王朝時代
※会期中、一部展示替えがあります。



[交通案内] 阪急「御影」駅南改札口より東南へ徒歩5分
JR「住吉」駅より北西へ徒歩15分
阪神「御影」駅より市バス19系統で「阪急御影」下車徒歩5分

香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

Tel 078-841-0652 Fax 078-841-1402 <http://www.kosetsu-museum.or.jp/mikage>

中之島香雪美術館「珠玉の村山コレクション ～愛し、守り、伝えた～」IV.ほとけの世界にたゆたう 10月6日(土)～12月2日(日)



川喜田半泥子
井戸手茶碗
銘「雨後夕陽」
昭和16年(1941)頃

半泥子は様々な研究から
新たな創作を行った

小堀遠州 茶杓 江戸時代



伝千利休 竹一重切花入 銘「音曲」
桃山時代



川喜田半泥子 大夢出門(タイムイズマネー) 昭和23年(1948)

黒織部茶碗
銘「暫」
桃山時代



石水博物館は、伊勢国・津を本拠とした川喜田家の歴代当家が収集した茶道具、日本画、洋画、古典籍、錦絵、伊勢商人関係の歴史資料などを所蔵する博物館です。川喜田家は、寛永年間(1624-45)、江戸の玄関口・日本橋大伝馬町に木綿仲買の店を構えたのち木綿問屋として発展しました。当主たちは、商いが軌道に乗ると様々な趣味をもち、京都に隠棲して和歌を詠み、茶道を嗜み、中には本居宣長の門人となって国学を学んだ者もいました。奇想の画家と呼ばれる曾我蕭白の伊勢遊歴時代の作品も伝わっています。こうした活動や人脈は、最先端の情報を得る重要な場でもあったのです。同家16代当主の川喜田久太夫政令(号：半泥子、1878-1963)は、このような文化的土壌に育まれ陶芸家としても活躍しました。本展では、代々の当家が、その経済活動や幅広い交流の中で入手し今に伝える貴重な名品の中から、茶道具に焦点をあてて紹介します。